

単元名：

「見つめて描く」

(全12時間扱い中 第3時)

授業日時 2021年8月26日(木) 第6校時

授業学級 1年A組

授業会場 美術室

授業者

指導教官

指導者

(1) 主眼(授業の手立て&ねらい)

モチーフを決め、レイアウトを考えて描き始めた子どもたちが、それぞれの進度に合わせて制作を進めていく場面で、描き込みを抑えるためにモチーフの特徴を考えて下描きをしたり、明暗を出すために水の量を調整して色塗りをしたりすることを通して、それぞれの段階を終わらせて、次の段階への見通しを持つことができる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
導入	1. 教師の手本を見て、下描きの描き方や下地の塗り方を知る。	◎下描きって細かく描かなければいけないのかな。 ◎色塗りは失敗できなさそう。難しそうだな。 ◎下描きは細かいほどいいわけではないんだな。 ◎色塗りの最初は、1色で大まかに明暗をつけるのか。	「今日は、下描きの人は下描きの続き、色塗りに入れる人は下地塗りをしていきます。」 【厚紙, iPad, スクリーン】 「下描きは細かく描いても、色を塗ると消えてしまうので描き込みすぎないようにしましょう。」 「水の量と筆を動かす方向を意識するだけでも、立体感が出ます。」 ※下描きの程度は、モチーフの中にある細かい文字や縫い目(ステッチ)などは描かないことなどを説明する。 ※下地塗りについては、明るい部分は水を多く、暗い部分は水を少なくすること、硬い物は直線的に、丸い物は曲線的に塗ることなどを説明する。 ※どのように考えて描いているのか話しながら描く。	10
	【学習課題】鉛筆で大まかに形をとらえ、絵の具で大まかに明暗をとらえよう。			
展開	2. 下描きをしたり、色を塗り始めたりする。	◎自分のモチーフは筆箱だけど、どこまで描けばいいのかな。 ◎爽やかな感じにしたいから、水色で塗ろう。 ◎いきなり色を塗るのは怖い。	「それでは活動を始めましょう。わからないことがあれば聞いてください。」 ※モチーフのどこが目に入るのか、どこが特に気に入っているのか問いかける。 ※試し紙に色を試して確認しながら塗	25

		◎ある程度描けたけど、塗る時にちょっと不安だから、もう少し下描きをしようかな。 ◎筆箱のファスナーの取っ手をちゃんと描きたい。 ◎色を塗っていたら下描きの線が見えなくなってきた。鉛筆で描き足しても大丈夫かな。 ◎明るくて、薄い色で塗る部分から塗って、少しずつ濃くしていこう。	ることを提案する。 ※もし下地塗りに入れそうな場合には、下地塗りに入ることを提案する。 ※塗った後に鉛筆で描くと画面が汚れることがあるため、描きすぎには注意することを伝える。	
終末	3. 次時への見通しを持つ。	◎下描きを終えることができた。次は1色で明暗をつけていくけど、暗いところは水を少なくして塗ればいいんだな。 ◎1色で明暗を塗ることができた。これを基にして、うえからモチーフの色を塗っていけばいいのか。水の量を多めにして少しずつ塗っていこう。	「下描きを終えた人は、初めに説明したように、水の量に気を付けて塗っていきましょう。」 「色を塗った人は、次の時間からモチーフの色を塗っていきます。今日塗った明暗を基に描いていくので、今日と同じように水の量に気を付けていきましょう。」 ※生徒が次の活動について考えられるよう声をかける。	5
	4. 片付け	◎下描きはこのくらいでいい気がする。 ◎まだ全体的に色が薄いから、暗い部分を濃い色で塗っていきたい。	「色を塗った人は、作品を乾燥棚に置いてから他の物を片付けてください。」 「下描きをした人も片付けましょう。」 ※色塗りをした生徒と下描きをした生徒では片付けにかかる時間が異なるため、活動の終了時間をずらす。 【本時の評価（評価する対象）】 ・描き込みの程度を考えながら下描きをすることができる。（活動中の姿、作品） ・色の濃淡や筆の動かし方を意識しながら、下地を塗ることができる。（活動中の姿、作品）	5